

のり海況速報 第7報 (22-7)

平成22年12月22日発行
千葉県水産総合研究センター
東京湾漁業研究所
千葉県農林水産技術会議

資料 のり海況調査 (12/20 : 内湾, 12/21 : 内房北部)
関東・東海海況速報 (12/21) , 東京湾口海況図(12/21)

【水温・塩分の状況】

内湾から内房北部海域の表面水温(図1, 2)はほぼ順調に降下しており、現在ほぼ13~15℃台になっています。

塩分は依然東京灯標付近で低くなっていますが、千葉県側ではほぼ30~33台前半となっています。

一方、黒潮がここに来て再び接岸してきています。このため、水温20℃台の水塊が大島付近から相模灘・東京湾口に向かって波及しており、湾口部の水温が昨日(21日)から18℃前後に上昇しています。これに伴って、内湾から内房北部海域の底層には水温17℃台・塩分34台前半の水塊が浸入していますので、今後もこの動きには注意が必要です。

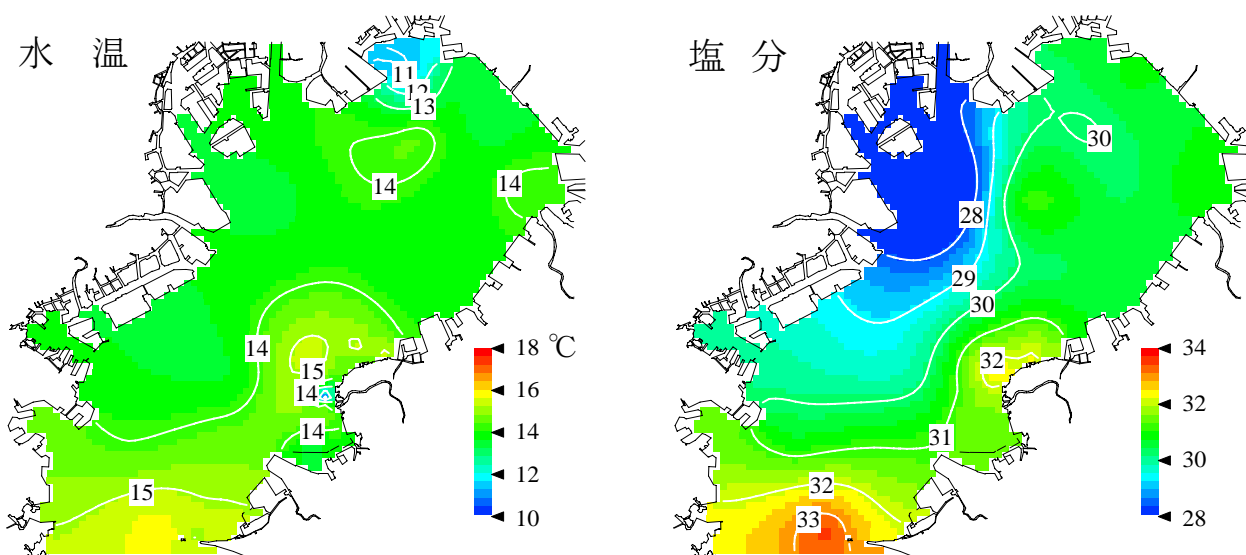


図1 表層の水温・塩分分布 (内湾 : 平成22年12月20日)

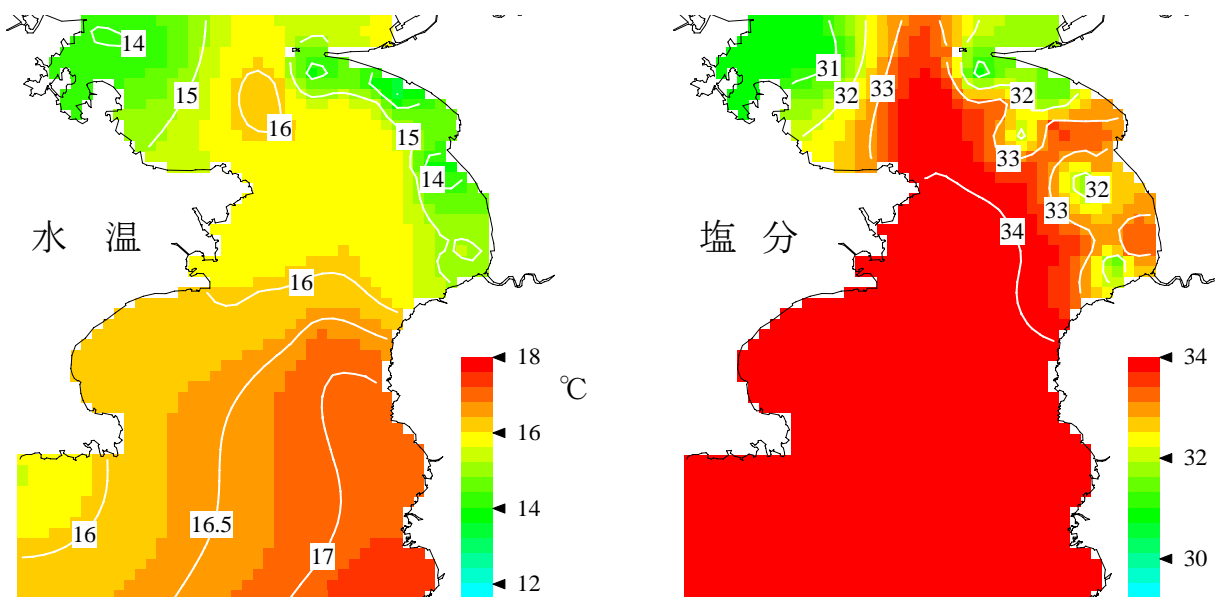


図2 表層の水温・塩分分布 (内房北部海域 : 平成22年12月21日)

【赤潮・栄養塩の状況】

赤潮は内湾，内房北部海域とも発生していませんが，内湾では依然プランクトンが多く，中央から北部は透明度がほぼ2m台と低く，水色はやや褐色になっています。

優占種はケイ藻のスケルトネマで，内湾北部では渦鞭毛藻のギムノディニウムもやや多くみられていました。

表層の栄養塩(図3, 4)はリン酸態リンが全体的に平年より少なく，大貫・湊ベタ流し漁場周辺ではノリの色落ち限界濃度近くまで低下していますが，いまのところノリ養殖にとって支障のない量と思われる。

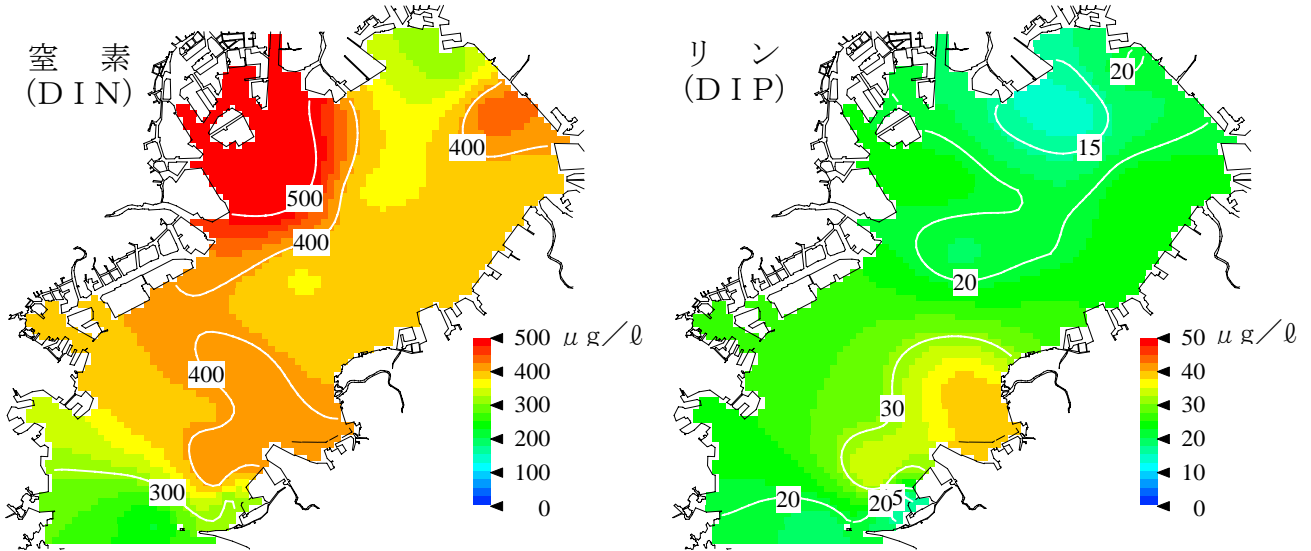


図3 表層の栄養塩濃度の分布 (内湾 : 平成22年12月20日)

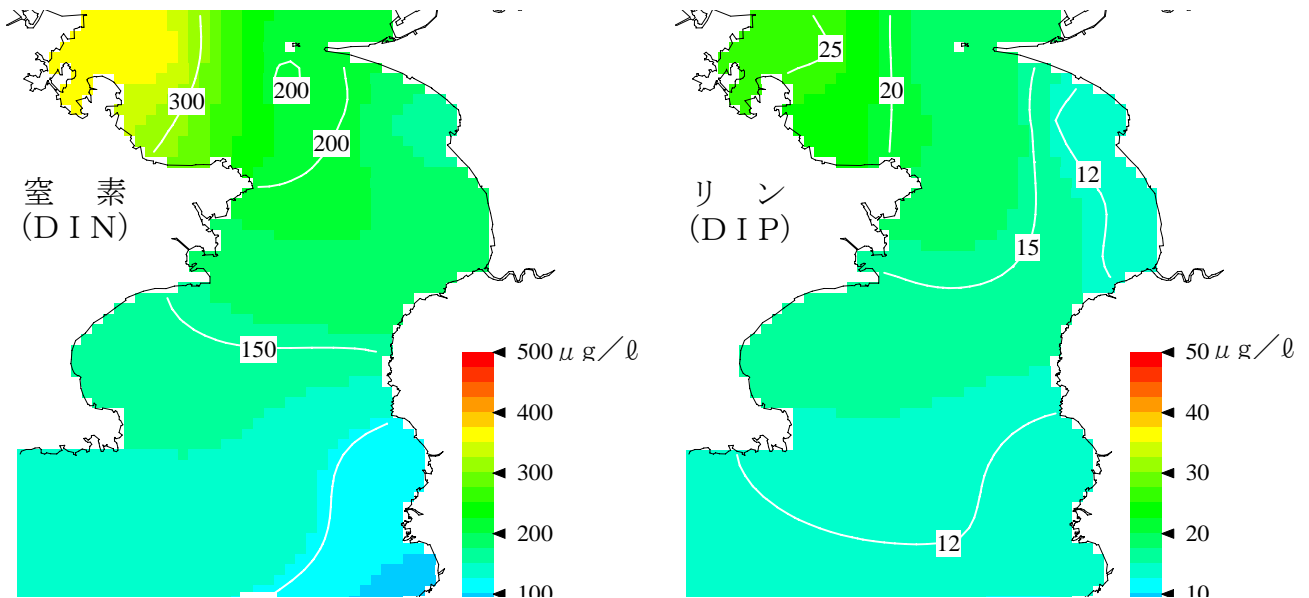


図4 表層の栄養塩濃度の分布 (内房北部海域 : 平成22年12月21日)